

Ⅱ 教育行財政及び教育環境の実態

教育環境実態調査の調査項目について（解説・留意事項等）

【 学校規模 】

- ・ 学校基本調査で回答した数値に基づいて記入
- ・ 児童生徒数は特別支援・分校児童生徒数を外数で記入

【 施設設備面 】

○ 防災対応 ガラスの状況

ガラスの事故は、重大事故につながる可能性が高い。学校施設は、児童生徒が学校生活を送る場であると同時に、非常災害時には住民の避難場所としても使用されるため、ガラス破損事故への対策が必要である。

ガラスの防災対策には、下表のような方法がある。

ガラス品種	安全性能
飛散防止フィルム	・ 破片が飛散しにくい
強化ガラス	・ 破損しにくい ・ 破片が鋭利でなく、しかも小粒である
網入り板ガラス	・ 火災や火の粉の侵入を防ぐ

○ 空調設備

児童・生徒の良好な学習環境を維持し、適切な教育活動を実施するため、普通教室及び特別教室等に空調設備を整備し、健康管理に配慮する必要がある。

○ PC環境

第2期教育振興基本計画(H25～29年度)において、以下の通りICT環境整備目標値が示されている。これらに基づき、調査項目を設定した。

- | |
|-----------------------------------|
| *校務用コンピュータ 教員1人1台 |
| *教育用コンピュータ1台あたりの児童生徒数 3.6人 |
| *超高速インターネット接続率/無線LAN整備率 100% |
| *教材整備指針に基づく整備 電子黒板/実物投影機 1学級あたり1台 |

☆ ICT支援員とは…授業や研修、校務において、教員と相談したり依頼を受けたりしながら業務を行う専門職員。

ICT支援員の具体的な業務例

- | |
|----------------------------|
| ・ 機器・ソフトウェアの設定や操作、説明 |
| ・ 機器・ソフトウェアや教材等の紹介と活用の助言 |
| ・ 機器等の簡単なメンテナンス |
| ・ 情報モラルに関する教材や事例等の紹介と活用の助言 |
| ・ デジタル教材作成等の支援 |

- ・ 電子機器の整備状況の前年比較欄について、前年度より増加は「○」、減少は「▼」、維持(増減なし)は「-」。
- ・ 本調査において、大型テレビとは50インチ以上の大きさのものとする。
- ・ デジタル教科書は教科ごと全学年分あれば「○」、全学年はないが一部ある場合は「△」、どの学年分もない場合は「×」。他の欄は音楽や図工・美術等の教科にある場合「有」。

○ 屋外施設

・ プール紫外線日よけ対策

不必要に過剰な紫外線に曝露されることにより、健康にさまざまな悪影響が生じる。特に、プールでの授業は、最も肌を露出し紫外線の影響を受けやすいため、日よけ等による紫外線対策が重要である。

・ プールからの緊急連絡手段

万が一の事故発生時に、円滑・迅速に児童生徒の救助・救命を行なえる体制を整えておくことが必要である。そのためにも、プールからの緊急連絡手段を整備することは重要である。種別は、固定電話(電話番号有)・子機(学校電話と共有)・内線(インターフォン機能のみ)。学校携帯電話(公用)・職員携帯電話(私用)。

○ 新JIS規格児童生徒用机イス

教科書や教材の大型化(A判化など)に対応できるよう、机面寸法を拡大し、多様な大きさを確保できるよう、新JIS規格の机イスを整備することが望ましい。

【 危機管理対策 】

○ 校内緊急通報システム

不審者の侵入防止だけでなく、万が一侵入された場合に校内各教室等への連絡を迅速に行うための通報システムを導入することが望ましい。

○ 電子メールによる情報通報システム

緊急事態等が発生した際は、保護者等に迅速に伝達することが求められる。そのためには、緊急時の連絡先リストや情報伝達網を日頃から整備しておくことが大切である。

○ 敷地周辺フェンス等設置・侵入者用監視カメラ

学校施設の防犯性を確保するため、門・囲障の設置や防犯監視システムの導入等により、物理的かつ視覚的にも守るべき範囲を明確化し、不審者の侵入を防ぐ必要がある。

○ 災害時備蓄食料

地震等大規模な災害が発生した場合、保護者の引き取りが困難な児童生徒が生じることが想定される。こうした事態に備えるために食料品の備蓄が必要である。

災害時の備蓄に望ましい飲料水・食料品等

	飲料水	食料品
発災～3日後	1日3リットル(ペットボトルは賞味期限が2年近くあるので保存しやすい)	包装を開けずすぐ食べられるもの(ビスケット・カンパン・チョコ・あめなど)
～約1週間後(電気が回復)	給水を受けるための容器(ポリタンクなど清潔でふたのできるもの)	レトルト食品、缶詰等(使い切りで、ゴミの出ないもの)

【 図書 】

○ 文部科学省基準蔵書数

小学校

学級数	蔵書冊数
1	2,400
2	3,000
3～6	3,000+520×(学級数-2)
7～12	5,080+480×(学級数-6)
13～18	7,960+400×(学級数-12)
19～30	10,360+200×(学級数-18)
31～	12,760+120×(学級数-30)

中学校

学級数	蔵書冊数
1～2	4,800
3～6	4,800+640×(学級数-2)
7～12	7,360+560×(学級数-6)
13～18	10,720+480×(学級数-12)
19～30	13,600+320×(学級数-18)
31～	17,440+160×(学級数-30)

※特別支援学級含む学級数

・学校蔵書数・充足率は、12月1日現在の数を記入。

【 理振 】

○ 理振基準金額

小学校	10,341,000円
-----	-------------

中学校	22,344,000円
-----	-------------

小学校：1組10,000円以上のものが対象

中学校：1組20,000円以上のものが対象